

第5回 豊富町まちづくり計画審議会(専門部会)の結果

第5次豊富町まちづくり計画の策定に向けて、3つの専門部会に分かれて第5回審議会を実施し、これまでの検討を通じた基本構想の内容について話し合いました。

第1専門部会（教育・福祉）	2018年9月27日（木）	13:30～15:30
第2専門部会（産業）	2018年9月28日（金）	10:00～12:00
第3専門部会（都市計画・行財政）	2018年9月28日（金）	13:30～15:30

各専門部会全体のまとめ

ミッション・ビジョン

■ミッション

- ・「つなぐ」というミッションはよい。
- ・今後、いろいろな面で“つながり”が必要になってくる。横のつながりに加え、縦のつながり(世代間、組織内、また、継承)のイメージがあるとよい。
- ・産業と産業をつなぐ、役場内の部署間のつながり、若い役場職員や世代の横のつながりなど必要である。
- ・今つながりがないようにも捉えられるため、今のつながりを広げるという表現も良いのではないか。
- ・酪農では、昔はつなぎ方式という言い方があり、“固定する”や“制限する”という意味なので、抵抗がある人がいるかもしれない。
- ・「つなぐ」というミッションをどこまで具体的に広げていけるかが今後重要である。

■ビジョン

- ・ビジョンは、一つのキャッチコピーではなくてもよい。
- ・はじめて計画を見た人は、ミッションとビジョンのかかわりが伝わりにくいかもしれないため、ミッションとビジョンのかかわりをもう少し示せるとよいのではないか。

人口の目標について

■人口目標に関する見せ方、姿勢

- ・人口を増やすことを考えるのは、現状を考えるとやはり難しい面もある。人口減を避けては通れないので、いかに最小限に減少を抑制するかが大事である。
 - ・人口減少することを前提に考えると、どんどん減ってってしまうので、維持や増加を考えていけないといけない。人口が減少する前提はやめて考えることが必要である。
 - ・ミッションとビジョンの考え方についてはよいが、人口の見通しを並列で記載するのはよくない。
 - ・見せ方として、ミッション・ビジョンの後に、人口減少の暗いイメージを示すよりも、先に人口を示して、下がっていくことが予想されている現実を見せて、ミッション・ビジョンを目指すというほうがいいのではないか。グラフの見せ方の工夫も必要である。
 - ・下がっていく見通しがあるが、豊富町はそうならないようにがんばるという、見通しに加えた、どうするかを示すようにすることが必要ではないか。それに対して、具体的にどうするかを示すようにしたほうがよい。
 - ・現象として徐々に人口が増えてきていることは事実なので、しっかり記載すべきである。
 - ・今後、その人口目標に向けて実施計画など施策に反映させていくための展開に対しても必要である。
- #### ■人口の減少抑制、維持、増加に向けて
- ・人口減少の抑制には、やはり産業を大事にして育てていくことが一番重要である。
 - ・特に、酪農の関連の企業は多く、酪農の影響は大きいので、酪農をいかにふんばることができるかが大事になってくる。
 - ・カキなど水産業も継続していくこと、見えるようにPRしていくことが必要である。
 - ・豊富町は温泉の観光がうまくいけば人口を増やす可能性は多くある。豊富温泉や湯治の取組などをPRしていけばもっと人が増えてくる可能性は十分にある。
 - ・一方で、若い世代にまちに来てもらうとときには、なにかサポートのシステムが必要である。
 - ・若い世代や中高年など世代ごとのつながりがあってサポートできるシステムがあり、世代間でお願いできるような仕組みがあるとよい。

基本計画

■農業

- ・後継者がいない農家が多く、将来的には牛舎などが残ってしまう懸念がある。
- ・空き家の処理などが今後難しくなっていくと考えられる。誰がやるのかが課題である。
- ・離農が増えると、景観が悪くなっていく。また、新規就農者においても、すぐに就農できるような環境でないと入ってこないのではないか。
- ・そのように考えると、酪農の法人化も今後必要になってくると思われる。

■観光

- ・稚咲内の夕日は素晴らしい。豊富で誇れる資源である。
- ・サロベツ原生花園の遊歩道が歩くことができなくなったことはもったいない。
- ・サロベツ原野の広大さと空気をPRするとあわせて、体験や堪能できるようにしたい。

■保健医療

- ・終末医療についてはどこから出てきたものか。方針として記載してもいいのか。

■高齢者福祉

- ・予防の取組は、いま地域包括センターで進められているが、今後もしっかり充実、定着させていけるとよい。
- ・現状ではまだ、まち全体としては出来ていないと思われるので、まち全体として広めていったほうがよい。
- ・介護予防は、町民の意識や気持ち的にも重要なことである。高齢者が元気で、女性が元気なことはまちとしても大切なことである。
- ・健康診断の受診率も高くないので、健康づくりにもつながる。

■子ども・子育て

- ・ファミサポなどの制度により、孤立をなくすための支援が大切である。
- ・就学前からの切れ目のない児童福祉に、学童保育の充実の視点や文言を加えられないか。
- ・学童保育だけでなく公営塾などもよいのではないか。単独ではなく、ファミサポなどの大きな仕組みのなかでできるとよい。
- ・小さい子どもだけでなく、高校生などが湯治の人とのつながりや交流の循環の仕組みがあるとよい。湯治の方のスキルを生かすような登録制度などがあればよい。

■住環境・交通などにおけるコンパクトシティ

- ・コンパクトシティとして、できるだけ集約して、がっちりコンパクトにしていけないと、お金をかからないようにはならない。
- ・財政面や利便性で考えるとコンパクトシティは方向性の一つとして考えられる。

■交通

- ・JRの存続はどうなるのか。なくなるとまちにとって大きな影響がある。
- ・地域としての姿勢や働きかけをしていくことが大事である。

■教育

- ・少人数だからこそその教育については、良い学校だと思っているので、環境がよい学校ということはもっとPRしてもよいのではないか。
- ・教育プログラムとして、まちには基幹産業の酪農や障がい者の施設、高齢者施設などがあるので、地域の産業などまちのさまざまな体験できる機会があるとよい。

■防災

- ・災害の際の町民への情報発信や、情報の受け取り方については重要である。
- ・いろいろな方法や形態を考えておかないといけない。

産業	基幹産業の酪農が活性化し、新規就農者が継続的に入っており、それを酪農家が支えています	●
	東京からのファームステイが毎年行われ、町内外の交流が生まれ、酪農家の花嫁も増えています	
	地元のファームレストランでは、とよとみ牛乳など地元食材と使った料理を食べることができています	●●●
	稚咲内漁港でカキ養殖が進み、新しい産業の創出、高付加価値化が進んでいます	●● △
バイオ	バイオマスを活用したクリーンエネルギーがまちの自慢になっています	●
	天然ガスの普及により、地域で新たなエネルギー利用が進んでいます	△△
温泉・移住	世界にも誇るべき温泉を求めて、国内・海外からたくさんの方が湯治に訪れています	●
	豊富温泉を活かして、町民がみんな元気で健康な暮らしを送っています	●
	美しい自然に囲まれながらサイクルツーリズムを楽しむことができます	
	湯治客の移住・定住が進み、それぞれ特技やスキルを活かしてまちづくりに参画しています	●
交流が りう な	豊富温泉を通じて、湯治客や町外の人とのつながりがあります	
	情報通信インフラの整備により、豊富にいながらにして世界とつながり、働くことができます	
	まちの子どもたちは、英語教育により、訪れる外国人へのおもてなしができています	
医療・福	医療では、ICTの活用でまちにいながらも安心して暮らすことができます	●
	障がい者や高齢者なども安心して暮らすことができるハンディレスなまちになっています	●
	高齢者が元気でまちで活躍し豊富町を支えています	●●●
暮らし	利便性だけでなく魅力的な楽しみや暮らしやすさがあり、心豊かに暮らすことができます	●
	町民による生活サービスや観光客の受入など、スモールビジネスが生まれています	
	地域のなかで困り事や課題を解決する共生のまちづくりが進んでいます	●
	豊富で心豊かに暮らす町民みんなが元気で、まちの魅力や価値を認識し、自慢しています	
	「なにもない」が、とよとみ暮らしの魅力になっています	△△
教育・子育て	豊富に暮らす子どもたちは、三大資源を体験しながら心も身体も健やかに育っています	
	幼児教育から義務教育、社会教育まで切れ目のない支援の仕組みができています	●
	少人数だからこそこの豊富町ならではの学習プログラムで、日本一の学校教育が子どもの育ちや学力を高めています	
	ファミリーサポート制度などにより地域で子育てしやすい環境がつけられています	●

- 酪農については、新規就農者を酪農家が支えているというよりは、新規就農者により牛乳生産量が1.5倍に増えているようなシーンのほうがいいのではないか。
- 牛乳などの地元食材を地元で食べることができるようになるとうい。
- 稚咲内漁港のカキ養殖については、漁業に関心を高めていくためにも、体験を含めて漁業を進めていってもらいたい。
- 稚咲内のカキも本格的にはなかなか難しいようである。期待するようなことはあまり書かないほうがよい。例えば、カキ養殖という文言をはずしたほうがよい。
- 天然ガスの文言は、現状一般で使えないなどの制限もあるので、出さなくても良いのではないか。バイオマスなどのクリーンエネルギーに括ってしまったほうがよい。
- 世界にも誇るべき温泉を求めて、国内・海外からたくさんの方が湯治に訪れているというのはとても素晴らしいと思う。そのための受け皿や交通の面が必要だと思う。
- 湯治客の移住・定住では、温泉をPRするとともに、10年後には受け皿づくりがなされて定着していないといけない。そうしないと豊富温泉を活用している意味がない。
- 町民みんなが元気で健康な姿は、人を呼び込んだり、交流人口につながるの大切である。
- 暮らしの面では、共生のまちづくりはぜひ入れてもらいたい。子どもから高齢者、障がいのある人まで包括的なケアが必要である。もう少し言葉を加えてもしっかり記載してもらいたい。
- 福祉や暮らしなどにおける、地域にあったらいいなというモノや仕組みに対して町民が実現に向けて取り組んでいるシーンがあるといい。
- ファミサポではなくても、そのような支援する仕組みがあると思う。

【追加やその他の意見】

- 地震など自然災害を考えると自然エネルギーの視点も必要である。
- 商工会では、空き家空き店舗のリフォームや新規起業を支援しているので、新しいことにチャレンジしたい人にやさしいアピールができるとよい。そのようなシーンを入れてもらいたい。
- 豊富はこの規模だから、あいさつできることはよいことで、みんながあいさつするまちやつながりがあるまちということも入れるといいのではないか。子どもたちも自然にあいさつできている。
- 主体性をもっとわかるように、「わたしもここで〇〇している」というような文言が入っているとよりいいのではないか。自分が暮らしているイメージがあるとよい。
- ここでは、夢に関わるつぶやきのできるだけ堅苦しくなく、短いフレーズで入れていけるといい。